平成28年度

教育研究所事業報告

四万十町教育研究所

平成２８年度

四万十町教育研究所　　事　業　報　告

目　　次

１．教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）
　　特別に支援または配慮を要する児童・生徒への手立てに関する研究
　　～基礎学力の定着を目指して～ …… ｐ 1

２．四万十町教育研究会の運営 …… ｐ 3

３．学校研究支援
（１）Ｑ－Ｕの取り組み …… ｐ 4

（２）ドクター（澤田先生）と連携したいのちの学習の取り組み …… ｐ 5

（３）校内研修支援 …… ｐ 6

（４）人間関係つくりプログラムの取り組み …… ｐ 7

４．教育支援センターの運営 …… ｐ 8

５．教育相談活動（　教育相談員・ＳＳＷ　） …… ｐ10

６．研究協力校の取り組み …… ｐ12

７．四万十教科書センターの運営 …… ｐ15

８．その他の取り組み
（１）研修会 …… ｐ16
（２）所内会・全体会 …… ｐ18
（３）町内めぐり …… ｐ19
（４）教育研究所だより「しまんと」 …… ｐ20

１．教育研究活動（研究員の調査研究テーマ）

「特別に支援または配慮を要する児童・生徒への手立てに関する研究」
～基礎学力の定着を目指して～

研究員　　市川　雅美

【テーマ設定の理由】

小規模校ばかりの本町内でも、特別に支援や配慮を要する児童・生徒がいるのが現状である。基礎学力の定着に課題のある児童・生徒においては様々な支援を必要としている背景を抱えている場合が少なからずある。しかし、なかなか具体的な支援策が見つからず、模索しながら日々実践を行っている。

この現状を踏まえ、昨年度も上記のテーマを設定し研究に努めてきた。しかしながら、学校現場への支援体制は十分とはいえず課題が残った。そのため今年度は少しでも多く学校現場へ出向き、校内研修への積極的参加に努めたい。「教育相談講座」等の研修会に参加し、少しでも実践に役立てる支援策をさらに研究していきたいと考え、上記のテーマを設定した。

【調査研究の概要】

町内外の校内研修や公開授業に参加し、子どもへの関わりや手立て、日頃の取り組みを中心に研修した。

「人間関係つくり」や「教育相談講座Ⅱ」「人権教育実践スキルアップ講座」に参加し、多くの具体的な事例や書籍からも学び研修を深めた。

【成果と課題】

成果

・校内研や公開授業に参加して、今までの自分の取り組みを振り返ることができた。授業者や講師の先生方のお話や取り組みに学び、これからの授業実践や生徒との関わり方においていかしていきたいと思える内容が多くあり有意義な時間となった。ある外国語活動の授業では、さりげなく、それでいてしっかりとＵＤの視点に基づいて工夫された教材が使われていた。色の学習をしていたその授業では、白の紙皿の周り数センチを残して目的の色で塗られた紙皿が黒板に貼られていた。なぜよく使われる色画用紙ではなく紙皿なのか。周りに白を残すことで中の色がより分かり易く、伝わり易いからである。この配慮と工夫こそがまさに UD の視点によるものであり、授業者の思いが伝わる教材だと感じた。自然と授業に取り入れているその姿勢に学ぶところは大きい。さらに授業を見させていただいて一番感じたのは子どもの力の偉大さである。目の前の子どもたちが一番成長するその瞬間は、お互いから学んだときではないだろうか。「教えて」と言える関係。さりげなく支援する姿。何とかわかって欲しいと一生懸命伝えている姿にそれに答えようと必死に聴く姿。その中から確実な学びが生まれている。そんな授業に多く触れ、子どもの持つ力の素晴らしさを改めて感じることができた。

・昨年度から受講している「教育相談講座」では多くの事例に触れ、具体的な支援策や対応の仕方を学ぶことができた。『人は取りにいきたい情報しかとらないというクセがある』と言われたことが印象に残っている。決して自分の経験値だけで見立てをせず、あらゆる方向から情報を得、そして支援会等の場で共通理解を図っていくことがいかに大切かということを改めて認識した。また人権教育の講座ではＬＧＢＴの当事者から話を聞くことができ、今後の教育現場においてどのようなことに配慮していけばよいのかといった点などを実体験から学ばせていただいた。『何に困っているのかを聞いてあげてください』と言われていたが、これこそが特別支援教育において特に大切にしなければいけない視点ではないだろうか。日頃の子どもとの関わりの中で、常に頭においておくべきことだと再確認できた時間と

なった。多様化には多様化で対応することが大切で、文献や研修会、他の人と協働で見立てをするなど多くの事例に触れることから学びが生まれてくると実感している。

課題

・学んできたことをどう現場の先生方に伝えていけばいいのか、自分だけのもので終わらせてはいけないと感じていながらも最後までそれができなかったことが課題として残った。学校現場に戻り、まずは周りの同僚と共有をし、日々の実践につなげていきたい。

２．四万十町教育研究会の運営

【実施時期】

期　　日	内　　容	備　　考
４月　１日	校長会（説明、理事選出）教頭会（説明、監査委員選出）	役場本庁
４月１３日	第１回理事会（部会調整・総会に向けて協議）	改善センター
４月２７日	四万十町教育研究会総会・部会（組織作り）	四万十会館 窪川中学校
５月２４日	第２回理事会（計画書・予算書の内容確認） 第１回役員会（計画書・予算書の具体の説明）	改善センター
６月１５日	第３回理事会（統一日に向けての協議）	改善センター
７月２７日	統一日（教育関係職員研修・各部会）	四万十会館他
８月２６日	第４回理事会（２学期統一日・まとめについて協議）	改善センター
１１月１６日	統一日（研究授業中心）	町内各会場
１月２５日	第５回理事会（提出書類・取組総括について他） （平成２８年度の総括・平成２９年度に向けての協議）	改善センター
２月１４日	第２回役員会（活動報告と意見交換）	改善センター
３月　７日	監査（補助金実績報告）予定	改善センター

【目的・概要】

四万十町全体の組織「四万十町教育研究会」として新体制が発足し今年は１０年目になる。

この研究会は、「四万十町の学校教育振興を図ることを目的とし、四万十町教育委員会指導のもと自主的な運営を図る」ものである。教育研究所は、教職員研修の助成を業務に含む機関としてその運営を支援している。教職員全員が１７部会のいずれかに所属して活動を行っている。４月には総会と各部会研修（組織作りと年間計画など）、夏には教育関係職員研修と各部会研修、１１月には、研究授業中心の部会研修を年間計画にそって活動を行った。

【成果と課題】

１０年目となる教育研究会の活動も理事会を中心に運営ができている。理事会以外に持たれる２回の役員会に参加し、部会長を通して部会からの意見や部会員の考えを聞くことができた。次年度以降の活動に反映させていきたい。

各部会での活動記録や資料等が、ファイルにまとめられ、教育研究会共有の財産として研究所に保管するようにしている。また、昨年度に引き続き、統一授業日の指導案を研究所に保管し、今後の授業に活用してもらうようにした。各校には単元名と学年を示した一覧を配信するようにしている。部会で購入した書籍等を文書として周知し、活用を促した。部会によっては小学校教員と中学校教員の人数に偏りがあり、お互いの考えを十分に反映させられなかったといったような声も聞かれたが、小中連携が図れ、今後の授業づくりにおいて参考になったという意見も出された。

【今後の取組案】

これからも、部会員の意見を教育研究会の運営に活かし、それをもとに、理事会で改善点を考えながら、教育研究会が発展するように取り組みを支援していきたい。その一方でこの研究会のあり方についても検討していかなければならないと考える。

３．学校研究支援

（１）Q-U の取り組み

【実施時期】

期　日	内　容	備　考
４月　１日	校長・教頭合同会で実施のお願い	
４月 11 日	各学校の注文書の回収	全小中学校
５・６・７月	全小中学校で１回目実施	全小中学校
９月～１月	全小中学校で２回目実施	全小中学校
２月	希望の学校で３回目実施	希望校のみ（中１、小１）
３月	実績報告・まとめ	

【目的・概要】

Q-U は、「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」からなり、児童生徒の心を理解するための調査法である。教師が日常観察や面接法によって児童生徒を理解することを補い、児童生徒の個々の状態と学級の状態を理解するための客観的で多面的な資料となりうるものである。主に学級づくりや児童生徒理解、教育実践の効果測定、不登校予防、いじめの発見・予防、学級崩壊の予防において活用され効果が期待できる。

【成果と課題】

本町では Q-U に取り組み始めて 10 年目を迎え、今年度も全小学校・中学校で実施できた。今年度も昨年度に引き続き、小学校３年生以上を対象に実施した（希望があれば小学校１，２年生も実施することが可能である）。

各校では、それぞれの取り組みがなされている。Q-U の分析や活用について校内で研修会を持ったり、実施データを細かく分析し全職員の資料として活用したり、複数回実施の利点を有効活用する等である。また学校によっては、学期ごとに Q-U を実施し、個人面談の資料として活用しているなど、それぞれに生徒理解につなげている。

教育研究所では、実施データは簡易プロット表を作成して蓄積し、全町の児童生徒の傾向を把握してきている。今後もデータの有効活用を図っていかなければならない。また、今年度は「人間関係つくりプログラム」でもお世話になっている松井カウンセラーに町内の傾向を見ていただく機会を得ることができ、校長会にて共有を図ることができた。

【今後の取組案】

学級の状態の改善は、基本的には児童生徒一人ひとりの顔が見える学校内で、学校の特性に応じた効果的な取り組みについての研究をし、全職員によって丁寧な対応をすることが必要である。全町の児童生徒の傾向を把握したデータを参考に、ピンポイントで働きかけていくことも考えられる。

チーム支援の重要性が言われている今だからこそ、学級づくりに関連して、今年度も実施した事業である「人間関係つくりプログラム」（P.7）等の企画もそれらを促進するものと思われるため、引き続き行っていきたい。

実際のところ、各校から出されたデータをもとに、町内の傾向を分析することは難しい面もあり検討していかなければならない課題であると思う。今年度のように、専門的な立場から見てもらえる機会を持つのであれば可能ではあるが、一過性のもので終わってしまっては意味をなさないように思う。そこで研究所の取り組みとして、来年度は Q-U の見かたや活用について上記のプログラムの講座で研修できるよう計画している。

（２）ドクター（澤田先生）と連携したいのちの学習の取り組み

【実施内容】

○「いのちの学習」実施校

◆川口保育所　◆認定こども園たのの

◆田野々小学校　◆仁井田小学校　◆窪川小学校　◆東又小学校

◆大正中学校

【目的・概要】

研究所では、いのちの学習に取り組む学校や保育所に、教材の貸し出しや授業への協力などの支援を行なっている。

いのちの学習の目標は、

①いのちの大切さについて学ぶ。

②友達の気持ちを考えることのできる共感性を育てる。

③このプログラムを通して家族の絆を大切にする心を養う。

である。幼児期・児童期の早い時期にいのちの教育をすることで、いのちに関して関心を持ち、いのちを大切にしていく心を育てていこうとする取り組みである。授業では、子どもたちが、赤ちゃんに触れ合ったり、成長を観察したりする体験的な活動、家族から話を聞いたりする学習を行っている。研究所では、紙芝居や胎児人形、赤ちゃん人形等の貸し出しを中心に行い、日程の都合がついた場合には出来る限り学校に支援に入ったり、参観させてもらうようにしている。

【成果と課題】

今年度も、いのちの学習の授業に上記の中学校へ支援に入らせてもらった。また、澤田医師は上記の中学校以外にも継続して関わりを持ち授業を行っている小学校もある。研究所としては、今年度は主に授業を参観させていただく形で関わりを持たせてもらった。中には継続して何回か連絡して頂ける学校もあり、徐々にではあるが、いのちの学習を通して各校との連携もできつつある。

昨年同様、いのちの学習に取り組む学校への教材貸し出しの機会も多かった。

課題としては、今後どのように各学校と関わりを持ち続けていくかがあげられる。現状としても教材の貸し出しや授業参観が主になってきており、一緒に授業を作り上げていくという形での支援は限られた学校になっている。そのため、授業への支援という形をどう継続させていくのか、今後の検討課題である。

【今後の取組案】

上記の課題の検討と、さらに各学校からの支援の需要がどの程度なのか、把握することも必要となってくると考えられる。

（３）校内研修支援

【実施時期】

窪川小学校	校内研修（授業研究・公開授業・協議）	6/15　10/17　10/26　11/30
川口小学校	校内研修（キャリア教育・研究授業）	10/6　12/5
東又小学校	校内研修（公開授業・講演）	12/6
田野々小学校	校内研修（授業研究・公開授業・協議・講演）	7/8　12/1　1/17
十川小学校	校内研修（授業研究・協議・研究発表会）	1/27
窪川中学校	校内研修（公開授業・講演）	11/10
北ノ川中学校	校内研修（研究授業・協議）	6/16　10/20　11/4

【目的・概要】

本町の教育委員会では、校内研修を活性化するために校内研修応援事業を行い、学校独自で使える研修費の配布を行っている。そこで、研究所でも、各学校の校内研修に参加し、研修が活性化するように協力・支援を行った。

基本的には、校内研修を公開している学校を中心に研修会に参加し、ともに研究する仲間の一人として参加する形とした。上記のように町内７校の学校（命の学習は除く）、１５回の校内研修に参加し、共に学ぶことができた。

【成果と課題】

今年度は７校の小中学校の公開校内研修に参加させて頂いた。特に講師を招聘し、授業研究や講演を伴う公開が多かった。せっかく案内をいただいても、他の会と重なっており、参加できない場合もあったが、目の前の子どもたちの課題や成長を共有できるよい機会となっている。また、子どもだけでなく授業者をはじめ教職員の思いや考えに触れることができ、つながりを持つことができた。

上記のような研修会の日に限らず、日頃から各校とつながり、いつでも訪問できる関係をさらに構築していきたい。

【今後の取組案】

今後も公開している校内研修にはできるだけ参加させて頂き、学校の状態を知り、それぞれの持つ課題に沿った取り組みができるよう、ともに学ぶ姿勢で参加していきたい。

（４）人間関係つくりプログラムの取り組み

【実施時期】（土曜日・午前開催）　全講座の講師：松井浩之スクールライフコンサルタント

期　日	内　容	備　考
４月３日	第１回：黄金の３日間とイメージつくり	
６月 25 日	第２回：優先感覚を理解する	
８月 25 日	第３回：不登校ワークショップ	１日講座
11 月 12 日	第４回：先生のための時間管理術	

【目的・概要】

四万十町では、Ｑ－Ｕに全町で取り組むなどして、子ども達の人間関係つくりに力を入れている。その一環として、よりよい人間関係つくりのサポートを目指して本事業を実施し、今年度で６年目となる。

また、子どもたち同士の人間関係つくりには、まず教職員間の人間関係つくりが不可欠であると思われるため、このプログラムを通じて校内の教職員同士のつながり、また、参加した町内外の教職員同士のつながりが深まることもねらいとしている。

一貫した指導を受けるために、全講座、スクールライフコンサルタントの松井浩之氏を講師として招聘した。

【成果と課題】

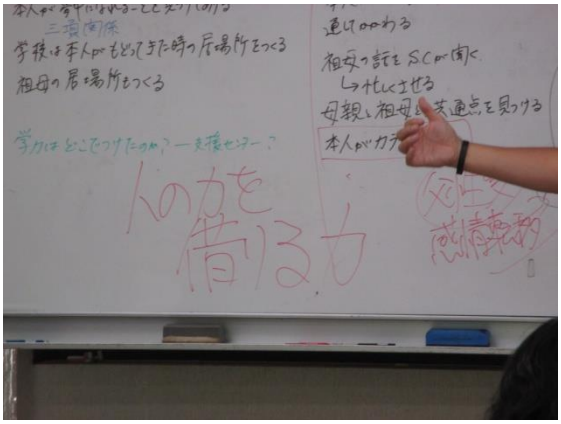
１回の講座の平均参加者数は７名であった。少人数ながらも、小・中学校の担任、養護教諭、町外の教育関係者の参加もあり、幅広い交流で得るものも多かった。今年度初めて参加された教育関係者の中からは、ぜひうちの町内でも広めていきたい、という声をいただいた。参加者からは「具体的な事例での研修で、実践的な取り組みでした。」「まだこんなに感動できる自分がいたんだと、そのことに感動しました。今後はこんな気持ちを大事にして職務を遂行していきたいと思います。」など、すぐにでも実践につなげていきたいといったような意欲的な感想が寄せられている。今年度もプログラムを実施後、内容や参加者の感想等をレポートにまとめ、報告できた事も成果としてあげられる。

来年度に向けては、できるだけ現場の先生方が参加しやすい日時を設定することと、Ｑ－Ｕの見かたやアクティブ・ラーニングのためのコーチングといった今の学校現場に求められている内容を計画している。

【今後の取組案】

来年度は「不登校ワークショップ」や「Ｑ－Ｕ講座」に加え、「アクティブ・ラーニングのためのコーチング」に関する講座を企画する。

実施日に関しては、夏期休業中の研修には参加者が多いことから、長期休業中に一日講座を２回取るように計画している。今年度末には各小中学校等にスケジュールを連絡し、参加への声がけを行っていきたい。



４．教育支援センターの運営

【目的・概要】

◆心理的・情緒的・身体的理由で不登校状態に陥った児童生徒に対して、相談及び個別指導、　　集団生活指導を行い、学校生活への復帰及び自立を図ることを目的とする。

◆義務教育修了後 19 歳をめどに、進路等が決まっていない者等に対して、相談及び進路情報の　　提供などを行い、社会への参加及び自立を図ることを目的とする。

◆教育支援センターでは次の４つを指導目標として掲げ、子どもの成長や課題に合わせて個別に　支援を行い、学校復帰を目指す。

（指導目標）

〇こころの安定を図る

・教育支援センターが通室生の居場所となるように支援する

・通室生と指導員とが信頼関係を築いていく

〇規則正しい生活リズムを身につける

・毎日教育支援センターに通室してくることで生活リズムが作られるように支援する

・保護者、担任、指導員などが通室生の生活態度に気をつけていく

〇他人の気持ちを考え、認め合うことができる

・体験活動や行事など様々な場面で人と関わる機会をつくっていく

・人と関わったり、繋がったりする楽しさを感じられるように支援する

〇様々な活動を通して自信を持つことができる

・子どもたちが得意な活動をみんなで認めていく

・やって出来たことをみんなで振り返る

◆教育支援センターと通室生が所属する学校(以下学校)とで毎月連絡会を開き、教育支援センターでの様子や通室状況などを報告、学校からの情報とを共有し、子どもへの支援方法等について話し合いを行い確認している。

「かげつ教室」

今年度は中学２年生１名の通室生でのスタートであったが、６月下旬より中学校を卒業した過年度生、９月上旬より小学５年生が通室生となる。

・小学５年生について…

９月から１０回の通室で紙飛行機づくりや支援センターの遠足にも参加することが出来たが定期的に会うことはできず、今年１月末に体調を崩し病院へ緊急搬送されることもあった。母親の身辺が不安定な為、母親への支援が主となっている。

・中学２年生について…

今年度は欠席が少なく、中間・期末・学力テストなど受ける前は少し教科の勉強が出来た。今年度はすべての学校行事を見学に行くことができたが、腹痛などで月に１～２度欠席があった。ピーマン、ししとう、オクラ、サツマイモ、菜花などの植え付け・収穫作業やクリスマス飾りづくりなどすすんで活動することが出来た。

・過年度生…

通室当初より、進学先は「須崎工業高校」を希望しており、入学願書を提出し３月入試に向けて少しずつではあるが、学習にも取り組めている。

「たのの教室」

今年度は小学６年生１名、中学１年生１名、「とおわ」「たのの」両教室にかかる中学１年生から通室届けが出ている。

・小学６年生について…

定期的に訪問していたが会えず、本人も訪問を嫌がる為、祖母に「たのの教室」へ来てもらい児童の様

子を伝えてもらっている。

・中学１年生について…

１学期は主に訪問し、調子の良い時は「たのの教室」から学校へ行くことができた。夏休みに学校との関わりが深まり、２学期からは直接学校へ行くようになった。１２月から行けなくなっていたものの、２月に入りまた行けるようになっている。ほぼ１日を学校で過ごす。

「たのの」「とおわ」両教室の中学１年生について…

年度当初は定期的に訪問し、「たのの教室」にも通室できていたが、現状は学校が定期的に訪問し、その際には勉強にも取り組んでいる。また「公設塾」にも週１回通い学習をしている。学校との情報共有。

【今後の取組案】

〇専門家による助言等も受けながら、それぞれの子どもの成長に合わせて支援を行っていく。

〇学校や関係機関、保護者との連携を図っていく。

【研　修】

月　日	内　容	備　考
5/10、11/10、1/27	教育支援センター連絡協議会	心の教育センター
6/14、10/13、11/25、1/17	教育相談講座Ⅰ	心の教育センター
5/19、6/21、10/27、12/6	教育相談講座Ⅱ	心の教育センター、四万十市
8/5	サポートステーション講演会	高知市
10/26	教育研究所研修会	いの町教育支援センター

※月１回の学校との連絡会。月に１回の研究所所内会。

【行事内容】

月　日	内　容	備　考
8 月 9 日	料理教室	改善センター調理室
8 月 24 日	かげつ杯	かげつ教室
10 月 27 日	料理教室	改善センター調理室
11 月 16 日	秋の遠足	香南市、高知市
12 月 22 日	クリスマス会	かげつ教室
3 月 24 日	進級を祝う会	かげつ教室

５．教育相談活動（教育相談員・ＳＳＷ）

【目的・概要】

学校だけでは、対応が今難なケースに対して、主に児童・生徒、保護者、学校、地域などからの相談を受け、学校との調整や家庭環境の調整を行う。そして、必要に応じて家庭訪問をし、不登校等の子ども達の支援にあたり、多方面からの支援が必要な場合は関係機関との連携を行い対応する。

また、義務教育終了後、進学も就労もしていない子ども達の自立を目指した支援を教育支援センター・教育相談員・ＳＳＷとで協力しながら行う。

【活動内容】

教育相談員２名・ＳＳＷ２名で、主に窪川地区、大正・十和地区に分けて相談活動を行った。

〇不登校の児童・生徒については、学校、支援センターと連携し、家庭訪問等を実施した。また、子ども達の状況により学校と相談し、教育支援センター「かげつ」「たのの」「とおわ」の各教室の紹介もしてきた。

〇不登校・引きこもりの子どもを持つ親に対しての支援として、松井スクールライフカウンセラー・教育相談員の教育相談を実施し相談援助等を継続している。また、県の臨床心理士；濱川博子スクールカウンセラーとＳＳＷとの教育相談も行った。

〇義務教育終了後の子どもへの支援については、家庭訪問等で関わりながら、進路や就職に向けての相談や情報提供などを行った。昨年度１１月から開設された高知黒潮若者サポートステーションとも情報交換をしながら連携するようにしている。

〇澤田医師と連携し「けんこう相談」（子どもや保護者へのカウセリング）を実施している。

〇ＳＳＷによる保育園・幼稚園への訪問による情報共有と支援体制の強化に取り組んできた。

【成果と課題】

不登校のケースについては、学校との定期的な連絡会の中で情報交換を行い、具体的な支援方法を協議してきたが、今一つ深まりに欠けて面もある。また、それぞれの教室に登録している児童・生徒理解に対しては、従来の合同ミーティングを見直し、所内会で話し合いを行ったことで、時間的に効率よく実施することができた。しかし、共通認識ができていない部分もあり支援方法が上手く取り組めない点もあった。支援センターとの情報共有を日常的にし、活動の方向性を確認する必要がある。義務教育終了後の子どもの支援については、自立へ向けて進むことができるよう、家庭訪問・相談（サポートステーション）などの取り組みを行った。就労や進学へ繋がった例もあるが、今後へ向けて心配な面もある。また、引きこもりで家から出にくくなっている状態から変化が見られる者もいる。不登校児童・生徒については、学級に復帰した例もあるもののなかなか学校復帰へとは繋がらず、今年度も課題として残されている。ＳＳＷの成果としては、幼稚園・保育所への訪問を継続したことで巡回相談に繋げることができた。

【今後の取り組み】

学校には、様々な問題を抱えた児童・生徒がおり、今後も義務教育中の子どもの課題は、さらに増えるのではないかと思われる。そのため地域の関係機関（民生児童委員会・要保護児童対策地域協議会 等）との連携を密にし、効率的に職務を遂行することが必要である。新設の公設塾「じゆうく」の活用や夏休み等に「こども食堂」を開く取り組みを進めたい。また、教育支援センターと学校との連絡会を通して不登校児童・生徒の学校復帰を目指し、学校コーディネーターとも協議していきたい。さらに、研修会等にも参加し、今後のより良い支援につなげて行きたい。

Ｈ２８年度　教育相談活動 等について

〈窪川地区〉

月	来所	電話（回数）	訪問	巡回	その他	備考
４月	1	2	8	0	0	
５月	0	0	8	6	2	
６月	0	1	5	6	1	
７月	1	0	4	5	4	
８月	0	3	1	8	2	
９月	2	1	2	4	2	
１０月	4	0	4	4	2	
１１月	1	0	4	5	0	
１２月	1	0	9	3	3	
１月	0	0	3	7	3	
計	10	7	48	48	19	

〈大正・十和地区〉

月	来所	電話（回数）	訪問	巡回	その他	備考
４月	2	2	8	6	1	
５月	4	0	7	7	2	
６月	2	0	6	3	2	
７月	1	0	9	0	1	
８月	3	0	4	5	1	
９月	2	0	3	5	0	
１０月	1	0	3	7	1	
１１月	1	0	4	2	1	
１２月	2	0	1	6	1	
１月	2	0	1	7	0	
計	20	2	46	48	10	

◎「学力向上に向けた授業改善」研究会（窪川中学校）

研究テーマ	「ユニバーサルデザインに基づく授業づくり」 ～教科会及び教科主任会を活用したタテ持ち授業による組織的な指導体制の確立～
研究概要	①研究推進委員会と３部会の連携を密にしてタテの機能強化を図ることにより、全教員が同じ方向性を持ち、ユニバーサルデザインと授業改善プランを基本とした授業改善に取り組んだ。 ②研究会等で研修してきたことを校内研や教科会で共有し、研究推進や授業改善を図った。 ③「タテ持ち」教科においては、週１回の教科会を週時程の中に位置付けて定例化するとともに、数学、理科、英語の３教科でＴＴによる授業を実施し、授業改善、授業力向上、若年教員サポートなど日常的なＯＪＴの推進を図った。
成果と課題	＜成果と課題＞ ①研究推進委員会のメンバーが３部会に分かれて入ることで、研究の進捗状況の把握が容易になり、適宜研究の見直しや推進ができ、本年度の指定事業である「中学校組織力向上のための実践研究事業」「中学校学力向上実践モデル校」「ＵＤによる学校はぐくみプロジェクト事業」の３つの研究を機能的に進めることができた。また、３部会を中心とするタテ機能と学年会を中心とするヨコ機能を絡ませて連携を図ることで、全教職員で取り組むことが可能となり、授業展開・授業規律を共有し、「授業づくりの５原則」の徹底に繋がった。 ②校区の小学校で複数回行われた「ふるさと未来教育」の公開校内研修に参加して、授業参観や研究協議をすることで、児童の実態や学習状況が把握でき『小中連携による「分かる」「できる」学びの創造』の研究推進ができた。「ＩＣＴ活用公開授業」や「学校づくりパワーアップ講座」等で研修してしたことを活用して、教材の視覚化を図ったり、3 年生を対象に授業を行ったりした。また、教科ごとに行われた専門研修に参加し研修したことを教科会で共有し、授業改善や教材分析に役立て授業改善を図った。 ③定例化された教科会の中で、授業の進度調整を始めとし、授業の流れの確認・単元計画・教材研究・生徒の躓きの共有と対策を講じることができ、併せてテスト作成・分析等、多岐にわたる協議を行った。また、隙間の時間を使って、短時間でも相談・打ち合わせをするなど、日常的な連携が見られた。 　さらに、若年教員サポートや授業改善を目的として、３教科（数学、理科、英語）でＴＴによる授業を実施した。日々の授業の中での意見交換や助言はもちろんのこと、同教科教員によるＴＴでは、授業者（T1、T2）を交替した授業、時間割の調整を行いベテラン教員の授業を参観した後で若年教員が行う授業など、単元や教材に応じて柔軟なサポート体制を取り研究を進めた。また、ミドルリーダーやＣＳＴ、コアティーチャーを活用して、教材分析や授業展開についての研修を行った。校内研修、若年研修、教科研修の授業においては、事前に指導案を教科会で作成・検討し、事前授業、公開授業、事後授業を行うことにより授業力向上を図った。 　アンケート等の結果から、「楽しい授業」「分かる授業」の数値は伸びており、ある一定、授業改善は進んだように思われるが、全国学力・学習状況調査や高知県学力定着状況調査の分析結果から学習したことが十分定着していない、習得した知識を活用して課題を解決する力は十分付いていないという課題が明確となった。原因の一端として、家庭学習の質や量の不足が考えられる。さらなる授業改善や授業力向上の必要性とともに、授業内容の定着に向けた家庭学習のあり方、課題の出し方な

	どについても研究していく必要がある。

【成果と課題】

今年度も昨年度に引き続き、「研究協力校」を２校にしぼった。研究所としても校内研修に参加し、授業について学び合えた。しかし、参加の回数が少なかったのが課題である。来年度は協力校の２校とさらに連携を図るよう努める。

【今後の取組案】

来年度も、２校にしぼって「研究協力校」の課題に沿って、できる限り協力しながら進めていきたい。

７．四万十教科書センターの運営

【運営要項】

〇設置場所・・・・「四万十町農村環境改善センター」の一室

〇開室・休室及び閲覧時間

開室日・・・・・月曜日～金曜日

休室日・・・・・土・日曜日、祝祭日、１２月２８日～１月５日

閲覧時間・・・・午前９時～午後５時

〇貸し出し期間・・・１０日間を限度とする

〇教科用図書展示会・・・文部科学省の告示により決定

（今年度開催期間：平成２８年６月１７日～６月３０日）

【目的・概要】

教育関係者の教科書研究の便宜や一般の方々への情報公開の一環として、平成２４年１月４日より四万十町教育研究所で企画・運営・管理を行っている。

主な業務内容としては、 教科用図書の貸し出しと教科用図書展示会の開催である。今年度も昨年度に引き続き、年度初めの校長・教頭合同会において、研究所の業務の一環として「四万十教科書センター」の運営のことをお知らせした。

また、教科用図書展示会は平成２８年６月１７日から２週間開催したが、期間が限られていたこともあってか、外部からの利用者は少なかった。

【成果と課題】

上記でも述べたが、今年度も、年度初めから各校に教科用図書の貸し出しについて周知した。昨年度は改訂の時期でもあったことから貸し出しの要請があったが、危惧したとおり今年度はほとんど閲覧や貸し出しの要請がなかった。

ただ、小中学校以外では年度途中より開設された公設塾の講師の方からの利用が数回あった。今後も活用してもらえるものと思われる。

今年度は町の広報誌にも展示会の期間を掲載し、広く町民にも情報発信をしたが教育関係者以外の利用は見られなかった。しかし、せっかくの機会であるので来年度も継続して情報発信を行っていきたい。

【今後の取組案】

より多くの方に利用していただくために、展示期間中だけでなくゆっくりと座って閲覧していだたけるような空間づくりも検討していく。

８．その他の取り組み

（１）研修会

【実施時期】

期　　日	内　　容	備　　考
4月 8日	高岡地区市町村教育委員会連合会（定例総会・部会総会）	須崎市民文化会館
4月22日	ＳＳＷ活用事業初任者研修	高知県立大学
5月 10日	第１回　教育支援センター連絡協議会	高知県教育センター分館
5月11日	高知県教育研究所春季連絡協議会	高知県教育センター分館
5月18日	第１回　高知県教育研究所中西部地区連絡協議会	中土佐町文化会館
5月19日	第１回　教育相談講座Ⅱ	高知県教育センター分館
6月 3日	ＳＳＷ活用事業第１回連絡協議会	高知県立ふくし交流プラザ
6月14日	第１回　教育相談講座Ⅰ	高知県教育センター分館
6月21日	第２回　教育相談講座Ⅱ	高知県教育センター分館
6月23日	若者の学び直しと自立支援事業高吾地区連絡会	須崎市民文化会館
6月24日	発達障害に関するセミナー	ソーレ
6月29日	高岡地区特別支援教育研修会	土佐市防災センター
7月 4日	ひきこもり支援に関する研修会	いの町すこやかセンター
7月12日	高岡地教連　学校教育部会　県外視察研修（鳴門市）	鳴門市立林崎小学校
7月19日	高岡地教連　教育支援部会	須崎市総合保健福祉センター
7月22日	若者はばたけプログラム講座	高知県立青少年の家
7月28日	佐川町虐待防止研修会	佐川町立桜座
8月 5日	こうち若者サポートステーション講演会	高知県立ふくし交流プラザ
8月23日	四万十町研究主任会（小中学校）研修会	四万十町役場
	若者キャリア支援セミナー	高知県立大池キャンパス
8月26日	教育相談体制の充実連絡協議会	宿毛市立文教会館
9月 8日	若者はばたけプログラム講座	高知県立大永国寺キャンパス
10月12日 ～ 14日	四万十町教育委員会視察研修（大分・佐賀県）	武雄市図書館 武雄市立北方小・中学校 大分市民図書館 大分県立美術館
10月13日	第２回　教育相談講座Ⅰ	高知県教育センター分館
10月26日	教育研究所視察訪問	いの町教育研究所
10月27日	第３回　教育相談講座Ⅱ	高知県教育センター分館
10月28日	ＳＳＷ活用事業初任者研修会	高知県立大学
10月31日	高岡地教連　教育支援部会	日高村保健センター
11月10日	第２回　教育支援センター連絡協議会	高知県教育センター分館
11月11日	若者はばたけプログラム講座	高知県立青少年の家
11月16日	高知県教育研究所秋季連絡協議会	室戸市立室戸小学校

17 日		室戸市保健福祉センター
11 月 19 日	「子どものための理解」研修会	太平洋学園高等学校
11 月 25 日	第３回　教育相談講座Ⅰ	高知県教育センター分館
12 月 2 日	幡多地区児童問題関係職員研修会	四万十市中央公民館
12 月 6/9 日	第４回　教育相談講座Ⅱ	高知県教育センター分館
12 月 10 日	心の教育センター「子育て講演会」	高知県教育センター分館
12 月 27 日	人権教育実践スキルアップ講座	高知県教育センター分館
１月 17 日	第４回　教育相談講座Ⅰ	高知県教育センター分館
１月 20 日	若者はばたけプログラム講座	高知県立青少年の家
1 月 27 日	第２回　教育支援センター連絡協議会	高知県教育センター分館
２月　3 日 4 日	全国小学校英語活動実践研究大会京都大会	京都市立大宅小学校 京都市総合教育センター
２月　9 日	高岡地教連　教育支援部会視察研修	フリースクール WIN こども食堂・ごめんこどもクッキング
２月 17 日	ＳＳW活用事業　第２回連絡協議会	ザ・クラウンパレス新阪急高知
３月 10 日	第２回　高知県教育研究所中西部地区連絡協議会	中土佐町文化会館

（２）所内会・全体会

【実施時期】

月・日	会の種別	場　所	月・日	会の種別	場　所
4 月　6 日	全体会・所内会	改善センター	11 月 4 日	全体会・所内会	改善センター
5 月　9 日	全体会・所内会	改善センター	12 月 16 日	全体会・所内会	改善センター
6 月 10 日	全体会・所内会	改善センター	1 月 11 日	全体会・所内会	改善センター
7 月　6 日	全体会・所内会	改善センター	2 月 10 日	全体会・所内会	改善センター
9 月　7 日	全体会・所内会	改善センター	3 月 22 日	全体会・所内会	改善センター
10 月　5 日	全体会・所内会	改善センター			

【目的・概要】

所内会では、研究員の研修や研究、教育支援センターの運営等の報告を行い、情報の共有化を図るとともに各事業に対して検討を行う。所長が少年補導センター所長を兼ねており、少年補導センターを含む全体会と所内会を月１回開催している。

【成果と課題】

全体会は定期的に開催できた。全体会で話し合う大まかな内容は、以下の通りである。

日程	全体会の流れ
9:30～10:30…少年補導センター所内会 10:30～11:00…全体会 11:00～12:00…研究所所内会 ※兼務である所長が全ての会に参加するため 11 月より時間帯を午後からに変更 大正方面からの参加もあり、できるだけ 時間を有効に使えるようにするため	１．月行事の確認 ２．所内報告 ３．今後の取り組み ４．その他

所内会では教育研究所内の各事業の検討や情報の共有化が図れた。特に教育研究所と教育支援センターとは場所も離れていることから、通室してくる生徒の様子や状態を全体で把握するのに所内会は大きな役割を果たし、教育支援センターの運営についての支援策を考えるうえで効果があった。また、教育相談活動においても、事例検討ができ役立っている。

【今後の取組案】

月１回の所内会を原則とし、教育研究所内と教育支援センターの活動についての意見交換を行い、今後も情報の共有化を図っていくこととする。その中で各事業の検討を行うとともに、教育支援センターの円滑な運営に向けての支援策を考えていくこととする。

（３）町内めぐり

【実施時期】

８月１８日	四万十町内外教職員（１０名参加） 改善センター → 一斗俵沈下橋 → 高賀茂神社 → 黒鳥 → 道の駅「四万十とおわ」→ 無手無冠 → 馬の助神社→ 半平旅館 → 改善センター	大正 十和 窪川方面

【目的・概要】

四万十町の自然や歴史を知ることを通して、地域に対する理解を深め、地域を愛する心を育むことを目的として実施した。対象は、今年度四万十町小中学校転入の教職員及び希望する教職員とした。また、教育研究所中西部地区の研究所へも案内をしたが、今年度は残念ながら日程が合わず参加していただくことはできなかった。参加者が少ないということで中止となっていたが、２５年度より再開した。四万十町に勤務している教職員の方に少しでも地域を知ってもらうことが一番のねらいである。四万十町内は広範囲に及ぶために、校区外の地域については、普段なかなか見学する機会も少ない。

そこで、１日の見学では巡回できる場所に限界はあるが、大正・十和・窪川地区をそれぞれ見学できるようにした。

【成果と課題】

１０名の参加で、計画していた行程を見学することができた。参加者からは、大変好評で、できれば悉皆研修にしてぜひ多くの先生方に参加してもらえたら、という意見も頂いた。１日では見学できる地域が限られることが課題であるが、行程がマンネリ化しないよう工夫していく。

（参加者の感想）

○４月から初めての勤務地となった四万十町。その勤務地のことを知ることは非常に重要なことであると考えています。その点からも興味深く、学びの多い「町内めぐり」となりました。また進行については研究所等の先生方の名司会のおかげで楽しく過ごすことができました。まさに「楽しく学ぶ」です。そんな見学となりました。参加させていただいて本当によかったと思っています。多くの歴史的文化遺産があり、直に見ることができたことで印象に残りました。

○町内の歴史や文化、伝統にふれることができ大変有意義な一日でした。ふだん、それぞれの勤務している地域にあまり出られないので、町外から新たに来た教職員は一年目必ず参加するようにしてもよいと思いました。

【今後の取組案】

来年度以降も継続して取り組んでいきたい。

（４）教育研究所だより「しまんと」

【実施時期】

第 20 号　　7 月 20 日発行
第 21 号　　12 月 14 日発行
第 22 号　　3 月 21 日発行（予定）

【目的・概要】

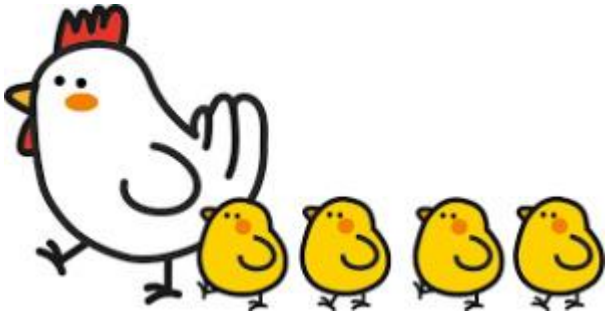
昨年度に引き続き、教育研究所が持っている情報を各学校に発信する手段として、教育研究所だより「しまんと」の発行に取り組んでいる。町内の教職員、教育研究所運営委員に一人１部ずつ配布している。今年度も、各学校の取り組みや、研修で行なったことを知らせることを中心に紙面づくりをした。

【成果と課題】

研究所の活動や取り組みだけでなく、町内外の学校の取り組みを紹介できたことはよかったと感じている。参考になることがあればと、今年度は県外の外国語活動の先進校の様子も載せることができた。昨年度、年間の発行が２回と情報を発信する手段としては少なくなってしまったことは課題であるとあげていたので、今年度は目標としていた３回（学期に一回）の発行ができたことはよかった。町内の校内研修の様子をもう少し発信できればよかったのかもしれない。

【今後の取組案】

研究所の取り組みをより詳しく知ってもらうためにも、上記の課題でも述べたように、もう少し情報の発信を小まめに行っていきたい。また書面の内容について



平成２８年度 四万十町教育研究所スタッフ

所　　長　　岡　　澄子
研 究 員　　市川　雅美
ドクター　　澤田 由紀子
教育相談員　　伊賀　修　山﨑　一
教育支援センター指導員
　　下谷 良一　下元　美和　岡田　美也
スクールソーシャルワーカー
　　土居　裕子　齋藤　マサ

平成２９年３月２日